

令和3年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
(1) 授業改善と 専門性の向 上	① <授業改善> 育成を目指す資質・能力に 基づく目標設定や学習評価及 び主体的・対話的で深い学び の視点から授業改善を行う。	研究推 進課 全学部	国語科数学科等において、学習 評価に視点を置き、研究を実施し てきた。新学習指導要領を確認し 目標設定・評価を意識はしている が、ねらいの明示や展開、働きか けに課題がある。	【努力指標】 目標設定や学習評価を 検討し、主体的・対話的 で深い学びに繋がる展開 や働きかけを工夫し、授 業改善している。	担当授業等で目標設定や学習評価、主 体的・対話的で深い学びの視点から、学 習内容や指導方法の工夫改善に取り組ん だ職員の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月 に職員に アンケート を実施 する
	② <専門性の向上> 専門性の向上を図り、児童 生徒の特性や能力に応じ、確 かな学びに繋がる授業を展開 する。	教務課	教員の専門性向上への取組を継 続しており、授業のねらいや個別 の目標等を明確にし、保護者等に 十分に説明できることが必要とな る。	【満足度指標】 保護者や関係機関の方 々が、本校の授業内容に 満足している。	授業参観等で授業内容に満足している 保護者や関係機関職員の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	【達成基準】 B以上	参観者に アンケー トを実施 する
	③ <ICT機器の活用> 児童生徒がICT機器を活用し、主体的に取り組む授業 を実践する。	情報支 援課	児童生徒用のICT機器が導入 され、活用が見込まれるが、指導 の目標に対し、効果的に活用する 必要がある。	【努力指標】 児童生徒がICT機器 を活用し主体的に学んで いる。	児童生徒自身がICT機器を活用して いる割合 A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月 に個人内 評価を実 施する
(2) キャリア教 育の推進	① <プログラムの活用と改善> 錦城版キャリア教育プログ ラムを活用し、自己選択や自 己決定に関する実践や家庭と の連携を図る。(保護者等か ら情報を得て、生活面や学習 面、進路面について見直し、 プログラムの改善を図る。)	進路支援 課 各担任	自立と社会参加・貢献や自己選 択・自己決定を意識し、個に応じ た選択や決定力の向上を図る必要 がある。また、キャリア発達を促 すために家庭と連携し取組を継続 する必要がある。 (つきたい力として生活面や学習 面、進路面の情報を追加し改善す る必要がある。)	【成果指標】 錦城版キャリア教育プ ログラムを個別の指導計 画等に位置づけ、児童生 徒の自己選択・自己決定 力に向上や広がりが見ら れる。 【努力指標】 保護者が、キャリア教 育の取組内容を意識し、 家庭でも取り組もうとし ている。	自己選択・自己決定の面で向上や広が りが見られた児童生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 キャリア教育の具体的な取組内容を意 識し、家庭等でも取り組もうとしている 保護者の割合 A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月 に個人内 評価を行 う
	② <進路支援の充実> 「進路の手引き」や「はじ めの一步」、映像を活用しキ ャリア教育や進路支援の充実 を図る。	進路支援 課	進路に関する職員の知識量にば らつきがある。進路の手引きやは じめの一步、企業・施設での映像 等の活用による校内研修会や校内 授業公開、施設見学等を実施し、 専門性の向上を図る必要がある。	【成果指標】 職員のキャリア教育の 実践力や進路に関する知 識量に向上が見られる。	進路支援に繋がる情報を得て、授業や 保護者・地域との関わりに活かしている 職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月 に職員ア ンケー トを実 施す る

令和3年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

(No.2)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
(3) 安心・安全 な学校づく り	① <危機管理意識の向上> マニュアルやヒヤリハット 等を参考に、日常の安全管理 に留意した行動をとり、事故 防止や健康管理を行う。	指導課	近年、重大な事故はないが、軽 微な事故は発生している。また、 さまざまな配慮を要する児童生徒 も多く、安心・安全な学校づくり を推進する必要がある。	【努力指標】 マニュアルやヒヤリハッ ト、事故報告などを参考に 日常の安全管理に留意した 行動をとっている。	マニュアルやヒヤリハット、事故報 告等を参考に日常の安全管理に留意し た行動をとっている職員の割合 A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月 に職員ア ンケート を実施す る
	② <健康・安全・防災に関する 教育活動の充実> 健康・安全・防災に関する 授業や行事等において実践を 行う。	指導課 保健課 各部	健康・安全・防災に関する児童 生徒への指導は、各部の授業や避 難訓練等の行事で行っているが、 各自の身近なものとして指導内容 を充実させる必要がある。	【努力指標】 授業や行事等で健康・安 全・防災に関する指導を 積極的に行い、工夫してい る。	新型コロナウイルス感染症に対応し た指導及び学校安全計画に即した指導 を行っている職員の割合 A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月 に職員ア ンケート 実施、内 容・工夫 点も調査 する
(4) 業務の平準 化と効率化 の工夫	① <平準化の推進と効率化の工 夫> 校務分掌における業務の平 準化を推進し、各自が業務の 効率化を工夫する。	教頭	80時間超の時間外勤務の職員は いないが、昨年度は新型コロナウ イルス感染症に伴う様々な変更や 消毒業務なども加わり、時間外勤 務が増加傾向にある。 校務分掌における業務の平準化 を図るとともに、教職員の効率化 の意識を高める必要がある。	【努力指標】 校務分掌等の平準化を推 進し、業務の効率化を図っ ている。	校務分掌における業務の平準化に取 り組み、昨年度より業務の効率化を工 夫している教職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	【達成基準】 B以上 ※勤務時間調 査結果の分 析も加味し 評価する。	9月と2月 に職員ア ンケート を実施す る